

所属 高知追手前高校
氏名 胎中 さおり
R G SH3

1 研究の背景

私が担当している2 - 2 Hのクラスは、人文語学コース(40名) 英語 が5単位、ライティングが2単位の時間数である。英文の理解力と速読力を高めるために、ワークシートを使ってアウトラインを掴ませたり、音読を工夫することで、多くの英文を読ませて速読力を伸ばしたい。そして、英文を理解することが楽しいと思う生徒が増えてほしい。

2 リサーチクエスト

「ワークシート(プリント)を本文の概要・文脈理解や音読に活用しながら、英文の速読力を高めていくには、どのように指導すればよいか。(速読力到達数値目標：WPM クラス平均 90以上を目指す。)」

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果：

本文のアウトラインを掴ませるために、ワークシートを使って日本語で穴埋め形式の問題を解かせている。本文の概要理解に役立っているが、英文を日本語で理解しようとする所から抜け出せていないように思われる。

予備調査2 英語力を示すデータ：

WPM(6月・7月で2回実施した平均。) 平均 68.2 WPM (40名)
全国模試での長文問題における平均点。「第1回 全統模試(河合塾): 6月1日実施」

	配点	全国	2 H	県内	校内
問5 長文	5 5	22.9	24.6	26.1	22.2
問6 長文	4 5	19.6	21.3	20.5	19.2

予備調査3 生徒のアンケート結果(5月)：

和訳先渡しの授業は、気に入っていますか。

非常に気に入っている(13) まあまあ気に入っている(25) あまり気に入っていない(2) 全然気に入らない(0)

和訳先渡しの授業は、自分の英語力を伸ばす上で、役に立つと思いますか。

非常に役立つ(5) まあまあ役立つ(19) あまり役立たない(13) 全然役立たない(3)

4 仮説の設定

仮説1 内容把握 Q & Aのワークシート(概要を日本語や英語で穴埋め形式など)を作成し、解答する時に該当英文箇所にアンダーラインをさせると、和訳プリントを見ての解答でなく、英語で英文を理解するようになるだろう。

仮説2 ワークシートを使って、生徒が本文の要約(トピックや概要をつなぎ合わせる)をすると、概要や要点をとらえながら読む態度が身につくようになるだろう。

仮説3 ワークシートを活用しながら、パラグラフリーディング(段落のトピックや中心となるアイデアを理解する)

をさせると、作者の言いたいことや意図が速く読みとれるようになるだろう。

5 仮説の実践と実践の結果

(1) 仮説1の実践

ワークシートは、本文の文脈に沿って、概要や要点を把握できるような質問を取り入れ、日本語または英語で解答させる。英文の内容に関する質問に解答する時に、本文を1枚にまとめたプリントを使い、該当の英文箇所にアンダーラインを引かせる。(なお、本文を1枚にまとめたプリントは、教科書と違ってページをめくらずに、さっと英文全体に目が通せるし、ペアでの音読練習などにも便利でありいつも使用している。)

(1') 仮説1の実践の結果：生徒のアンケート結果。

授業で使ったワークシートは、読解力を伸ばす上で役に立ったと思いますか。

とても役立つ	まあまあ役立つ	あまり役立たない	全く役立たない
2	32	1	1

「その理由はどのような点ですか。」という質問には、「穴埋めや質問に答える問題が、力を伸ばすのに役立っている。」「自分で考える機会が多かったので。」「段階的になっている。」などの回答が得られてよかった。また、「今ま

でも同じ形式のプリントを使ってきたから、あまり変わらない。」「内容理解がしやすくなるが、単語の線引きがわかりにくい。」などの意見もあった。それから、机間重視をしていて、生徒は、配布するプリントが多くなると、授業中に自分のペースでプリントを使って作業をするようになるので、指示を的確に伝えることが必要だと感じた。

(2) 仮説2の実践

英語の教科書も2巡目になり、生徒は教科書の課を再度繰り返して学習することになる。英文の各段落のトピックや概要をつなぎ合わせる要約をさせた。本文1枚のプリントと原稿用紙(B5またはB4版)を配布し、生徒自身が、Summaryに必要なと思う英文箇所アンダーラインをさせ、自由に要約させた。

(2') 仮説2の実践の結果

アンケートによると、教科書の2巡目の効果は、「とても効果がある・まあまあ効果がある」という意見が30名で、「記憶が定着する。」「本文の内容を思い出せる。」などの理由があげられていて、「前のテストで出来なかったのを完璧にしようと意欲が沸いた。」という意見もあった。要約ワークシートについては、「とても役立つ・まあまあ役立つ」というのが20名で、なかに、つなぎ言葉や英文を短くまとめることを工夫する生徒もいた。また、「要約は添削してほしい。」という意見があった。

(3) 仮説3の実践

授業の最初に、教科書の本文を、フレーズ(意味の区切り)で段落を変えた1枚のプリント、Taskを載せたワークシート(内容に関するT/F・英文の並べ替え・本文中に迷子の単語を戻したり、間違い探しをする問題) 新出単語の意味を与えたワークシート(一部穴埋めで日本語の意味を書かせる)を配布した。和訳先渡しはしなかった。CDリスニングや音読練習は1課分通して行い、T/F問題で全体的な概要を掴ませた。その時に、本文中で解答の英文箇所をアンダーラインさせて確認した。次の時間に、段落ごとに「この段落のトピックセンテンスはどの文だろう?」「作者はこの段落の中で伝えたいのはどこだろう?」と生徒に質問し、本文1枚のプリントにアンダーラインさせた。まだ始めたばかりの実践なので、プレッシャーを与えないように、答えが返ってこない場合は私が説明したり、難しい英文は質問せずに説明だけを行った。

(3') 仮説3の実践の結果: アンケートでは、次のような回答が得られた。

以前に、ピクチャーや、作者の言いたいことを意識して読んでいたか	とても意識	まあまあ意識	あまり意識していない	全く意識していない
	0	6	22	11
現在、ピクチャーや、作者の言いたいことを意識して読んでいるか	とても意識	まあまあ意識	あまり意識していない	全く意識していない
	2	22	13	2
今後、ピクチャーや、作者の言いたいことを意識して読もうと思うか	とてもそう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	全く思わない
	10	22	5	1

6 結果の検証

WPM(12月に2回実施した平均。) 2-2H : 平均 85.2 WPM (40名)

全国模試での長文問題における平均点。

「進研模試(記述)・7月実施」

	配点	全国	2H	県内	校内
問5長文	23	9.5	12.4	9.9	11.2
問6長文	23	7.3	9.3	7.0	8.8

「進研模試(記述)・11月実施」

	配点	全国	2H	県内	校内
問5長文	23	10.1	13.6	10.1	12.8
問6長文	21	4.7	6.9	4.5	6.1

生徒のアンケート結果。

6ヶ月前と比べて、英文の速読力がついたと思うか	とてもついた	まあまあついた	変わらない	下がった
	1	21	14	0
和訳にとらわれず、英文を英語の語順で読めているか	よく読んでいる	まあまあ読んでいる	あまり読んでいない	全く読んでいない
	4	20	11	1
空読みをしないで内容を理解しようと努めながら読んでいるか	よく理解しよう	まあまあ理解しよう	あまりしてない	全くしてない
	8	16	12	0

7 成果と今後の課題

アクションリサーチを行って、一番よかったことは、アンケートを通して生徒の率直な意見が聞けたこと、自分の授業を振り返ることができたこと、Reading Strategies(目的に合わせた読み方・読解の方法)について、自分自身関心を持ち、勉強できたことだ。

また、今までは 仮説1:ワークシートで教員側が概要や要点をまとめ、生徒は空欄補充する。 仮説2:要約で生徒が自由に概要や要点をまとめる。 仮説3:英文の主題を生徒が考えながら、教員がチェックする。という方法をとった

が、今後の課題は、ワークシートを活用しながら、文章の目的を考えた読み方を少しでも工夫できたらと思う。

<参考文献> 「アクション・リサーチのすすめー新しい英語授業研究」 佐野正之 大修館書店